

パーパス・ドリブンと イマージングチャーチの欺き

イマージングチャーチの紹介

ジェフ・トゥールと森大輔は最近フィリピンでの一週間の奉仕から帰国しました。ミドラッシュと聖書のヘブライ的背景を教える傍ら、私たちはひとつの大きな問題、パーパス・ドリブン（人生を導く目的）というものを取り扱わなければなりません。多くの国と同様に、フィリピンの教会はリック・ウォレンの流行に浸かっています。私たちが信徒を教えるための日曜日の礼拝に行くと、そこでは聖書を教える代わりに、『人生を導く5つの目的』を教えている教会が多くありました。

ミドラッシュについての教えとは別に、私たちがフィリピン人の人たちと分かち合わなければならなかったことは多くの人にとって非常にショックだったことでしょう。リック・ウォレンと彼の教えの問題は深刻なものです。ウォレンと「イマージングチャーチ」にいる彼の同労者たちは危険な教えと習慣を福音派教会へ持ち込んでいます。この記事では、リック・ウォレンとイマージングチャーチについて検証していきたいと思います。

イマージングチャーチ

みなさんは、「イマージングチャーチ」という名前を聞いたことはないかもしれませんが、おそらくみなさんとクリスチャンの友達はもうすでに影響を受けていることでしょう。イマージングチャーチとは西洋の教会で流行する運動であり、その影響は世界中に広がっています。イマージングチャーチとはひとつの教派ではありません。イマージングチャーチはさまざまな背景や教派の個々の教会やグループの中でのひとつの運動です。彼らは基本的に次のいくつかの点で一致しています。

1. 伝統的な福音派のキリスト教は、現代の「ポストモダンの世代」に合わせるため変革する必要がある
2. 伝統的な教会が教理と聖書の真理を強調してきたのに対し、ポストモダンの世界の教会は「神を体験すること」に強調を置く必要がある。真理は客観的ではない。重要なのは各個人の見方である
3. 教会は「荒野の教父たち（3世紀にエジプトの砂漠に隠遁した修道士たち）」が行っていた古代の神秘的な習慣、またその黙想による靈性に戻らなければならない

新しい宗教改革

プロテスタントの宗教改革は教会を暗黒時代の偶像礼拝とその儀式から離れさせ、聖書に基づいた理性的な信仰へと向かわせました。宗教改革者たちが多くの失敗を犯したことは否めませんが、聖書的な救いの方法と「聖書のみ」という真理は明らかにされました。現代、イマージングチャーチの指導者たちはもうひとつの宗教改革を目指しています。リック・ウォレンは言います

「私は第二の宗教改革を期待している。500年前の教会の最初の宗教改革は信条についてのことだった。次のものは行動についてのものとなる。最初のもは教義 (creeds) についてのものだった。次のものは行い (deeds) についてのものだ。これは教会が何を信じるかということではなく、教会が何をするかということに関するものとなる」

“Myths of the Modern Mega-Church,” May 23, 2005, <http://pewforum.org/Christian/Evangelical-Protestant-Churches/Myths-of-the-Modern-Megachurch.aspx>

従って、行動を促進するために教理に重きは置かれなくなっています。イマージングチャーチの他の者たちは、一致を促進するために教理を軽視しようとしています。『イマージェントの希望宣言 (*An Emergent Manifesto of Hope*)』という本の中の「再発明の終焉」という章でウィル・ Sampson (*Will Sampson*) はこう書いています：

「教会内のもうひとつの主要な分派はプロテスタント改革派であり、その信仰のみによって義とされるという信条は世界的に統一された教会から、大きな部分を離れさせた…そのような分裂は神の民の本質の間違った理解を正すために必要不可欠だったと主張する人もいる…従ってもし、正しくあることが共存することよりも大切だと言行によって言うなら、私たちの社会や、現代の人類と関係を持つことを望んでいる神を私たちはどう表すのだろうか？」

Doug Pagitt and Tony Jones, *An Emergent Manifesto of Hope*(Grand Rapids, MI:Zondervan, 2007),p. 159.

言い換えると、一致は真理より大切だと言っているのです。聖書はどうでしょうか？

『だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っています。あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入れ

てはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。そういう人にあいさつすれば、その悪い行ないをともにすることになります。』2ヨハネ 9 節—11 節

変わることはない信仰は私たちの教理を導くだけではなく、私たちが交わりを持つ者に関しても導きを与えます。一方、イマージングチャーチ指導者のダグ・パジット (*Doug Pagitt*) は語ります

「私たちはおそらく現代のクリスチャンとして 21 世紀の教会がどうあるべきかを考えるだけでなく、しかしまた、おそらくより重要なことは—21 世紀の信仰を持つという意味を考えることだろう」

Doug Pagitt, *Church Re-Imagined* (Grand Rapids MI: Zondervan, 2005), pp.17,19.

新しい世代のための新しい信仰

イエスさまが変わらないように、福音の真理は変わることがありません。この墮落した世に永遠の真理を持って手を伸ばす代わりに、イマージングチャーチはこの時代に合うように真理を変えてしまっています。彼らはこの不敬虔な世に合うようにキリスト教を「作り変え」「考え直し」「再発見」しているのです。社会学者たちはこの新しい時代を「ポストモダン」(科学を越えた霊的な世界を探している時代)と言いつけているので、イマージングチャーチはこの「ポストモダン」的な世界観に合うようにキリスト教を考え直そうとしています。それが出来ると彼らが考えているひとつの方法は、暗黒時代や荒野の教父たちの神秘主義的な礼拝へ戻ることです。2001 年の『ルザラン・ジャーナル (*Lutheran journal*)』でジュリー・B・セビグ (*Julie B. Sevig*) は「古代の新しいもの」という記事で次のように定義しています：

「ポストモダン主義者は全ての感覚を使ってキリストと出会うことを好む。それこそ、伝統的な典礼を用い、瞑想的な礼拝をすることの魅力の一部だ。それは香やキャンドル、手で十字の形を切ること、パンとぶどう酒の味と匂い、イコン (聖像) の感触や油を注がれることである」

Julie B. Sevig, *The Lutheran, "Ancient New"* (*The Lutheran*, September 2001).

イマージングチャーチの主要な指導者であるレオナード・スウィート (*Leonard Sweet*) は言いました

「ポストモダン主義者たちは感じ、味わい、触り、聞き、匂いをかぐことのできる

神を欲している——五感を用いて神に浸るとのことだ」

Ibid., Sevig citing Leanoard Sweet from *Soul Tsunami*.

ローマ・カトリックや東方正教会の礼拝形式におけるイコンや聖画、儀式などはまさにこれらの経験を提供しています。

1995年にレオナード・スウィートとリック・ウォレンは「潮流の変化」というラジオでの一連のディスカッションを行い、その中で「新しい境界」また「変化の波」というものを呼び掛けていました。しかしレオナード・スウィートは1991年の『量子的(新しい時代の)霊性 (*Quantum Spirituality*)』という本の中で彼の立場を明らかにしました。彼は自分を導いてくれた「新しい光を持つ指導者たち」に従っていると主張しました。その人たちを自分の教師たちだと言及したのです。その本で彼が認めている指導者たちの中には、よく知られたニューエイジの作家であるマシュー・フォックス (*Matthew Fox*)、ケン・ウィルバー (*Ken Wilbur*)、M・スコット・ペック (*M. Scott Peck*) などがいます。マシュー・フォックスはその著書『宇宙的なキリストの到来 (*The coming of the cosmic Christ*)』の中でこう述べています

「私は復興を予見している、『霊的な構想に根ざした再生』を…この新しい誕生はすべての文化、すべての宗教を突き破り、事実、私が『深いエキュメニズム』と呼ぶ、世界的な宗教の目覚めの中にある、生き生きとした全ての神秘主義的伝統に共通な知恵を引き出すことだろう」

Matthew Fox, *The Coming of the Cosmic Christ* (San Francisco, CA: 1988) Harper Collins, p.5.

フォックスはイエスが「そのキリスト」ではなく、「キリストの自覚を持っていた者」であったと教えています。それがガンジーやモーセ、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア、ブッダにもあったものだと述べているのです。これは典型的なニューエイジの欺きです。

レオナード・スウィートのもう一人の教師であるケン・ウィルバーのHPでは、次のような習慣が推薦されています：ヨガ、禅、センターリングの祈り、カバラ、超越的な瞑想、タントラ（ヒンドゥー教に基づいた性のかたち）、クンダリーニー（蛇の力）ヨガ。

Roger Oakland, *Faith Undone* (Silverton, OR:2007 Lighthouse Trails Publishers) p.110.

イマージングチャーチの指導者で、またケン・ウィルバーを尊敬するロブ・ベル (*Rob Bell*) は、2004年のクリスチャン・トゥデイ（英語版）の記事で言いました

「私たちはキリスト教を東洋の宗教、ひとつの命の道として再発見しつつある」
Andy Crouch Citing Rob Bell, “Emergent Mystique” (*Christianity Today*, November 2004)

レオナード・スウィートが福音派の教会に持ち込もうとしている、「新しい光」とは一体何なのでしょう。

ヘブライ人預言者のイザヤはこう語りました

『来たれ。ヤコブの家よ。私たちも主の光に歩もう。まことに、あなたは、あなたの民、ヤコブの家を捨てられた。彼らがペリシテ人のように東方からの者、ト者で満ち、外国人の子らであふれているからだ。』イザヤ 2 章 5 節－6 節

神秘主義信仰

『量子的靈性』の中でレオナード・スウィートは「新しい信仰」の中の神秘主義の重要性を強調しています

「キリスト教の伝統からかつて隅に追いやられた神秘主義は、今ポストモダンの文化においてほぼ中心に位置している…神秘主義は心・体の経験を通して到達する形而上学だ。神秘主義は経験から始まり、神学で終わる」

Leonard Sweet, *Quantum Spirituality*, p.76. 『Faith Undone』 p.33

なぜリック・ウォレンは公にニューエイジの考えを広めている人と奉仕において協力しているのでしょうか？分かりやすく言えば、これから見ていくように完全に彼らに賛同しているからです。

従って「ポストモダン主義者」が感覚的な礼拝や暗黒時代の偶像礼拝を欲しているので、イマージングチャーチの指導者たちは喜んでそれを与えようとしているのです。ひとつの例をあげましょう。

ダン・キンベル (*Dan Kimball*) は『イマージングチャーチ (*The Emerging Church*)』という本を書きました。リック・ウォレンはその本の前書きを進呈し、本全体の余白にコメントを記し、イマージグチャーチとそのやり方への支持を大いに示しました。「由緒ある礼拝のための聖なる場所を作る」という章の中でキンベルは書いています

「イマージングの文化の中では暗やみは霊性を象徴している。これはカトリック教会や正教会をはじめとし、仏教の寺院でも見られるものだ。暗やみは何か深刻なことが起こっていることを我々に伝えている」

「未熟で古代の礼拝形式に戻ることが現代新しく、最先端だとも言われていることは何と皮肉なことだろう。私たちはただ、教会が存在してきたのと同じようにこれまでであった古い礼拝形式に戻ろうとしているだけなのだ」

Dan Kimball, *The Emerging Church*, p.127. (『Faith Undone』 p.67)

しかし、彼が未熟で、古代の礼拝形式と呼ぶものは神秘主義的で、非聖書的な荒野の教父たちの礼拝であり、新約聖書の教会の聖書的な礼拝ではありません。

霊性形成と瞑想的な祈り

イマージングチャーチをひとつにしているある活動は、センターリングの祈りの習慣とその宣伝です。『パーパス・ドリブンチャーチ (*The Purpose Driven Church*)』の中でリック・ウォレンは教会の目を覚まさせるために、神はリチャード・フォスター (*Richard Foster*) とダラス・ウィラード (*Dallas Willard*) の**霊性形成**運動を起こされたと書きました。リック・ウォレンは福音派が瞑想的な祈りなどを行う「**霊性形成運動**」に参加すれば、教会が完全な成熟へと至ると信じています。

リチャード・フォスターは『スピリチュアリティー 成長への道 (*Celebration of Discipline*)』という本を著しました (日本語版は日本基督教団出版局より)。フォスターは福音派のキリスト教が見失ったひとつの流れがあると考えます。**荒野の教父**に戻るこの伝統無しには、キリスト教は完全ではないということです。そして「キリスト教改革のための改革者」という組織を設立しました。キリスト教を改革するためには、**瞑想的な祈り**を福音派キリスト教の中に組み込む必要があると彼は考えています。

瞑想的な祈り、荒野の教父、霊性形成? 読者の方が、みことばを愛す福音派のクリスチャンなら、これらの言葉をおそらく一度も聞いたことがないでしょう。しかし、このような東洋的で、神秘主義的、異教的な習慣は多くの福音派教会に入り込んできて、今その損害は取り戻せないほどになっています。残念なことに、聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うため私たちはこれらのことを理解しなければなりません。基礎的なことから始めてみましょう。

瞑想的な（コンテンプレティブ）祈り：仏教とヒンドゥー教から

瞑想的な祈りという名前こそ間違っただけの印象を与えるものです。「瞑想」という言葉から、神の偉大な業や、神のことばを深く考えるように思ってしまうかもしれません。しかしこれは正反対です。瞑想的な祈りでは精神を意図的に停止して、「魂」が神さまを瞑想することのできるようにするものです。

荒野の教父たちは主に3、4世紀に砂漠に住んでいたキリスト教修道士たちです。彼らは異なった祈り方を実験するうちに、マントラの瞑想を発見しました。

カトリックの祭司であるフランク・X・トゥーティ (*Frank X. Tuoti*) は『神秘主義の時代の夜明け』という本でこう説明しています：

「4世紀の荒野の教父たちは、“猿のように落ち着きのない” 考えを止めるために単純な方法が必要だと理解していた。したがって、数世紀前に仏教徒やヒンドゥー教徒によってすでにもたらされていたマントラを取り入れた祈りは、クリスチャンの祈りとして普及してきた。ただ荒野の教父や教母たちだけではなく、何世代にもわたるクリスチャンたちの間で取り入れられてきた」

この習慣は修道院制度を通じて広がっていきました。有名な支持者ではマイスター・エカートや十字架の聖ヨハネ、アビラの聖テレサなどがいます。実際、この瞑想的な祈りもしくはセンターリングの祈りはどのようなものなのでしょう。彼らの論理はこうです。

- 精神を停止しながら、魂は神に瞑想する
- 思考によって神を知ることはできないという論理
- 考えと精神は祈りを邪魔するもの、なので
- マントラを唱えながら頭を空にして、神さまに満たしてもらう

ティルデン・エドワーズは霊的な指導者たちを訓練するために「靈性形成のためのシャレーム・祈りの協会 (*Shalem Prayer Institute for Spiritual Formation*)」を創設しました。彼は英国国教会の司祭です。シャレームは瞑想的な靈性を広めるためにできたエキュメニカルなキリスト教団体です。

「この神秘的な流れ（瞑想的な祈り）は極東の靈性への西洋からの架け橋だ」(Tilden Edwards, *Spiritual Friend*, p. 18)

「今日、私たちの前に開かれている霊にある大きなエキュメニズムでは、私たちはある特定の東洋の宗教の教えを謙遜に受け入れなければならない。ある習慣をクリスチャンにするのはその由来ではなく、その目標だ。東洋の霊的習慣を適切に受け入れることは、満ち足りた信仰生活を大きく助けることになる」

また「スピリチュアル・ディレクターズ・インターナショナル」も同じような団体です。彼らの講座には次のようなものがあります

- 仏教へ架け橋を作る
- イグナチオによる習慣（イグナチオ・デ・ロヨラ：イエズス会創始者 宗教改革を逆行しようとするもの）
- カバラ（ユダヤ教神秘主義）
- 聖なる迷宮、新しいパラダイム（祈りの迷路）
- 地の祈り（Earth prayer） 全人類の相互作用（これは典型的なニューエイジです）
- トランスフェイス（文字通りすべての信仰へ）

従って、これらはヒンドゥー教や仏教から取り入れた祈りの儀式であり、それはより高い霊的体験に到達するために、マントラ（呪文）を繰り返すことによって考えを停止することなのです。このようなことは聖書的に聞こえるでしょうか？

これを支持している人たちは公に、エキュメニズムやインターフェイス（信仰の融合）、仏教へ架け橋を作ることなどについて語っています。

『また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。だから、彼らのまねをしてはいけません。』マタイ 6 章 7 節、8 節

以下の箇所では、イエスさまは祈りのひとつのパターンを与えられました。マタイ 6 章 9 節から 13 節ではこのようにあります

天にいます私たちの父よ	私たちの父である神の地位を 考える
御名があがめられますように	御名を ほめたたえる （評判など）
御国が来ますように	御国の現われを 望む
みこころが...地でも行なわれますように	みこころの達成を 望む
私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください	私たちの必要を神の前に 持っていく
私たちの負いめをお赦してください 者を赦す	自分たちの罪を 考え 、積極的に他

この祈りのすべての側面には重要な考えが含まれています。パウロは次のように教えています

『何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる**祈りと願い**によって、あなたがたの**願い事**を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。』ピリピ4章6節、7節

ここで注目してもらいたいのが、私たちが受ける平安は理解を越えたものですが、私たちの祈りや願い、感謝は直接的な思考を含んでいるということです。

聖書のどこにも、祈るために私たちの考えを停止するということは示されていません。それはオカルトへの入り口です。

現代の瞑想的な祈りを支持しているのは？

トマス・マートン (*Thomas Merton* 1915 – 1968) とヘンリー・ナウエン (*Henry Nouwen* 1932 -1996) はイマージングチャーチを通して尊敬を受けており、彼らの著作は数々のイマージングチャーチのHPで推薦されています。トマス・マートンは瞑想的な祈りを世に広めたカトリックの祭司です。彼はあらゆる宗教の瞑想的に祈る人たちと交わりをとりました。彼の支持者のひとりには族長スーフイーでした。スーフイーとは神秘主義イスラム教徒のことです。彼らは自分たちのマントラでアッラーの名前を繰り返す瞑想的な祈りによって、その同じ「崇高な状態」へと至りました。

マートンはアフマド・アル・アリ族長を「今世紀における偉大な宗教者のひとり」と称賛しました。

「彼はその霊性においてとても完全だ。確実に彼は偉大な聖徒で、聖霊に満たされた人物である。多くの聖徒が必要とされているこの時代で、彼のような人が与えられていることで神が褒め称えられるように。アフマド族長と私は考え方が同じである」マートン

マートンはその族長に福音を伝えないだけでなく、すでに「考え方が同じ」なのです。

トマス・マートンは瞑想的な祈りにおける象徴的な人物です。米マサチューセッツ州スペンサーにある聖ヨセフ大修道院のトラピスト会士の男子修道院の中には、彼をかたどった黄金の仏像があります。リック・ウォレンが推薦する、リチャード・フォスターは「スピリチュアリティー 成長への道 (*Celebration of Discipline*)」という有名な本の中で彼の言葉を11度引用しています。

ヘンリー・ナウエンもまたカトリック祭司で、マートンの弟子のひとりです。彼は「その心への道」という本においてマントラの瞑想について説明しています。

「聖なる言葉を繰り返すと、頭から心へとあなたは移行するのです」

リック・ウォレンはヘンリー・ナウエン著の「イエスの御名において」という本でこれについて語っています。

「私の妻、ケイがこの本を勧めてくれました。『この本は短いけど、奉仕者の心を打つものだったわ。この本は奉仕者につきものの葛藤について触れているの。世と親しくなろう、目を引くような者になろう、偉大な者になろうとする誘惑。私はほとんどの言葉にマーカーを入れました。』」

「イエスの御名によって」からの引用：

「瞑想的な祈りの訓練を通して、キリスト教指導者は愛の声を聞くことを学ばなくてはならない。...キリスト教の指導が将来、真に実り豊かになるために、**道徳的な**ことから**神秘主義的な**ことへ移行する運動が必要とされている」 (*In the Name of Jesus*, p. 6,31-32)

道徳的なことから神秘主義的なことへの移行が必要なのでしょうか？イエスは言います。

『また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。**不法**がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。』マタイ 24 章 11 節、12 節

ヘンリー・ナウエンは万人救済論(究極的にすべての者が救われるという考え)を信じる者です。

「今日、私が個人的に信じていることは、イエスさまが神の家への扉を開くために来たが、イエスさまを知ろうが知るまいが、全人類がその扉を通して行けるということ。今日、神さまへの自分なりの道を作れると全ての人に知らせることが私の召しだと思う」 (*Sabbatical Journey*, page 51, 1998 Hardcover Edition)

「ライアン神父」というカトリック祭司はヒンドゥー教徒、仏教徒、イスラム教徒の靈的な道を学ぼうとインドへ行きました。ヘンリー・ナウエンは彼の本に前書きを記しています。

「著者は仏教、ヒンドゥー教、イスラム教の賜物について素晴らしい寛容さを示している。著者はクリスチャンの靈的生活のために彼らの偉大な知恵を発見している。ライアンは自分のものからよりも、インドの靈的な習慣を学ぼうとインドへ赴いた。彼は多くの宝を持ち帰り、この本の中でそれを提供している」

「スピリチュアル・フォーメーション（靈性形成）」を掲げる、ニューヨーク・クイーンズ牧師ピート・スカッゼロ（*Pete Scazzero*）は最近、リック・ウォレンのサドルバック・コミュニティーチャーチで開かれた2010年2月9日から12日のラディカリス・カンファレンスで講演を行いました。

http://www.pastors.com/groups/pd_conferences/pages/speakers-pete-scazzero.aspx

ピート・スカッゼロは様々な種類の神秘主義を広めています。彼は定期的に米マサチューセッツ州スペンサーにある聖ヨセフ大修道院のトラピスト会士の男子修道院に訪れ、そこで瞑想をし、聖体拝領（ローマ・カトリックの偶像崇拜の儀式）にあずかっています。スカッゼロのHPではトマス・マートンとヘンリー・ナウエンの数多くの本が推薦されています。

<http://www.emotionallyhealthy.org/resources/recommendedreading.asp>

またリック・ウォレンの教会ではジャン・ジョンソン（*Jan Johnson*）に奉仕を頼んでいます。ジャン・ジョンソンはセンターリングの祈りと神秘主義の推奨者のひとりです。彼女のHPにはイメージを用いた祈り（イグナチオの瞑想法）や調整された祈り（カトリックで行われてきた瞑想的な祈り）についての教えが掲載されています。

http://www.janjohnson.org/book_table.html（2010年3月29日）

彼女の本には脳内をアルファ波で満たすためのマントラについて記載されています。これはニューエイジが靈の世界と交流を持つと主張している同じ「アルファ波の状態」です。これは純粋に悪魔的な体験です。ジャン・ジョンソンは著書「たましいが耳を傾けるとき」という本で説明しています：

「瞑想的な祈りとは…あなたの思考を静める祈りです。これにより、神の臨在を気付くより良い状態になり、神の声や矯正、導きをより聞くことができる」

「人生を導く5つの目的（p.89）」の中でリック・ウォレンはより遠まわしにですが、「ブリーズ・プレイヤー（ひとつの言葉やフレーズを何度も繰り返すもの）」を推進していま

す。

「このようなすべてのことを通して体験を求めてしまうなら、完全に勘違いをしている」とこのページで書いていますが、

現在リック・ウォレンとイマージングチャーチによって受け入れられた神秘主義の全体系はまさしく体験を求めています。次に2004年、イマージング国際牧師会議のタイムテーブルを載せますが、そこで取り上げられた非聖書的で、体験主義のテーマに注目してください。

2004年国際牧師会議	
迷宮（ラビリンス）が開場	午前 7:00—午後 10:30
ダン・キンベルの著書展 “イマージングチャーチ”	午前 8:30—9:15
瞑想的な朝の祈りエクササイズ	午前 8:30—9:15
持続可能な生活のフォーラム：ストレッチとヨガ	午前 8:30—9:15
全体セッション 3 講演者：リック・ウォレン	午前 9:30—11:30
ミニストリー・リソースセンター開場	午前 11:30—午後 4:00
個別セミナー2 ダン・キンベル—多感覚的礼拝と体験の作りだし方 ブライアン・マクラレン—ポストモダンのディスカッションへの入口：変遷を理解する アラン・ロックスバラ—預言的イマジネーション：将来を形作るコングリゲーション	午後 1:30—3:30

<http://www.lighthouse Trailsresearch.com/nationalpastorsconv2004.htm>

『なぜ、彼らは自分たちの刻んだ像により、外国のむなしなものによって、わたしの怒りを引き起こしたのか。』エレミヤ 8 章 19 節後半

PEACE = パーパス・ドリブン・エキュメニズム

「ある習慣をキリスト教的にするのはその由来ではなく、その目的だ」と主張しているにも関わらず、彼らの中には異教の儀式の導入とインターフェイス（宗教を越えた）との交わりの密接な関係が見られます。トマス・マートンとヘンリー・ナウエンは、イスラム教徒とヒンドゥー教徒を同じ霊的な兄弟だと公に認めています。イマージングチャーチの指導者たちも同じように、信仰による義と、偽りの教理、偶像礼拝の罪を区別しそこなっています。

リック・ウォレンは国連インターフェイス祈祷会の朝食において、（さまざまな宗教からの）参加者に向けてこう語っています

「私の持ち時間の数分の中で本当に（あなたがたに）言いたいことは**神があなたがたと共におられる**ということ...昨夜、私はここニューヨーク市での対外関係協議会に講師として招かれ、私たちの世界的な **P.E.A.C.E.** プランについて話すよう頼まれました。過去 25 年間、私は世界中で外国の牧師、奉仕者、祭司たちを訓練し、162 カ国で約 40 万人の聖職者や牧師たちを育ててきました。おそらくあなたの国にも行ったことでしょう」

神が人々と関係を欲していることに関してリック・ウォレンは

「今朝はひとつの宗教について話そうとは思いません。いいですか。ここにはカトリック教徒やプロテスタント、仏教徒、バプテスト派、イスラム教徒、モルモン教徒、ユダヤ教徒などの人たち、またおそらく無宗教の人たちがいます。私はそれぞれの宗教的背景に興味がありません。なぜなら、神は私たちにひとつの宗教を持たせるために宇宙を作ったのではないからです」

[Christian Post](#) より転写

<http://rs6.net/tn.jsp?t=oig8sobab.0.0.r49t9yaab.0&p=http://www.christianpost.com/>

リック・ウォレンは世界の最も大きな課題に対抗するため、世界的な **PEACE** プランを用意しています。

Planting (and Partnering) churches 教会を立てる（提携）する

Equipping leaders 指導者を備える

Assisting the poor 貧しい人を助ける

Caring for the sick 病気の人の世話をする

Educating the next generation. 次世代を教育する

この目標を達成するために、教会の教理を隅に追いやらせ、協力する者誰とでも手を組もうとしているのです。その協力者は次のような人たちにまで及びます、

同性愛者

「私は ACT-UP (ゲイ活動家団体) の代表者、共同創設者であるエリック・ソーヤー (Eric Sawyer) に会いました。そして『エリック。あなたのメッセージを広めるために何か出来ないかな』と聞いたのです。そうすると、『あなたの道徳的権威を用いたらどうだい』と言いました。私はこのような人たちと活動しているのです」 (『Faith Undone』 p.147)

イスラム教徒

「米ワシントンより—福音派の牧師であるリック・ウォレンは集まった 8 千人のアメリカ人イスラム教徒に向かって、ただ話しをするだけでは満足しないと語った。

『私は宗教間の対話に興味が無いことをここに告白します。私は宗教間の取り組みに興味があるのです。このふたつには大きな違いがあります』と毎年開かれている第 46 回北アメリカ・イスラム協会の参加者へ、土曜日の午後ウォレンは呼び掛けた。

『対話はとても安っぽいものです。対話に対話を重ねても何も生み出すことができません。愛とは何かの行動を起こすということです』ウォレンは続けて、『それは私たちが一緒に行くことなのです』

<http://www.christianpost.com/article/20090705/rick-warren-to-muslims-talk-is-cheap-le-t-s-work-together/index.html>

ローマ・カトリック教徒

「世界には 23 億人のクリスチャンがいる...おそらく私が思うにそのうち 6 億人はカトリック教徒だ。従って、それらすべてを合わせると世界で最も大きなネットワークとなる」 (『Faith Undone』 p.148)

「アメリカの 25% は基本的にカトリック教徒で、またアメリカの 28 から 29% は福

音派なので、それを合わせると過半数と呼べる...福音派プロテスタントとカトリック教徒の間で発達しつつあるこの協調をみなさんに見てほしい」“Myths of the Modern Mega-Church,” May 23, 2005,

<http://pewforum.org/Christian/Evangelical-Protestant-Churches/Myths-of-the-Modern-Megachurch.aspx>

『彼らは、わたしの民の娘の傷を手軽にいやし、平安がないのに、『平安だ、平安だ』と言っている。』エレミヤ 8 章 11 節

『「悪者どもには平安がない」と主は仰せられる。』イザヤ 48 章 22 節

次第に教理に関する本質的な問題はすっかり忘れ去られてしまいます。偽りの教理、さらには偽りの宗教を持つ人までもが、自分をクリスチャンと呼んでいるだけで受け入れられています。

「私は、その人の宗教に関わらずメシアなるイエスを信じる多くの人を知っている。彼らはただイエスを信じているのだ。それは宗教ではなく、関係性だ」(Interview with Rick Warren, CNN Larry King Live, December 2, 2005, Transcript) (Emphasis added).

「全ての宗教の中に真理は存在する。私、私、クリスチャンたちは全ての宗教の中に真理があることを信じている。だが私たちはひとりの救い主がいることをただ信じている。私たちは彼らから真理を学ぶことができる。私はさまざまな宗教から多くの真理を学んできたと思っている。なぜならそれらは真理の一部を持っているからだ。私はただイエス・キリストというひとりの救い主がいることを信じているが」(Larry King Live “Interview with Rick Warren” Nov.22, 2004).

「私はちなみに他の宗教にいるキリストの弟子たちたちを知っている」(Rick Warren (Emphasis added) Aspen Ideas Festival, The Aspen Institute, July 6, 2005, “Discussion: Religion and Leadership,” with David Gergen and Rick Warren).

『その祭司たちは、わたしの律法を犯し、わたしの聖なるものを汚し、聖なるものと俗なるものとを区別せず、汚れたものときよいものとの違いを教えなかった。』エゼキエル 22 章 26 節前半

当然のことながら、私たちは教会活動の一環の自然なものとして、善い行いを強調しなければなりません。私たちは事実この世での塩、光になるように召されています。しかし私たちの最も偉大な行いは福音の真理を届けることです。キリストにある兄弟たちへの慈善活動はこれに伴いますが、一般的な慈善活動はその後の話しです。リック・ウォレンは、教会に不可欠な働き（真理の福音を宣べ伝えること）をより重要性の低いもののためにやめさせています。私たちには聖書的なバランスが必要です。しかし、これまで見てきたようにイマージングチャーチは、聖なるものと俗なるもの、救われた人とそうでない人を区別せず、キリストの教えから遠く離れてしまっています。

本質的なものとは？

イマージングチャーチの中では認められていないクリスチャンの一群がいます。それは伝統的な聖書を信じるクリスチャンであり、リック・ウォレンが根本主義者と呼ぶ者たちです。

「根本主義者は福音派ではありません。根本主義者にはあらゆる種類がいます。ラリー、彼らはみな恐怖を基礎としているのです。キリスト教にも根本主義者たちがいます。イスラム教徒にも...イスラム根本主義者たちがいます。私はユダヤ教根本主義者たち数人に会ったことがあります」(Interview With *Rick Warren* Larry King Live December 2, 2005).

「ウォレンはあらゆる種類の根本主義者について予測した。彼らが『21世紀最大の敵のひとつ』となることを。『イスラム教根本主義、キリスト教根本主義、ユダヤ教根本主義、世俗派の根本主義——彼らはみな恐怖によって動かされている』『それぞれに恐れを持っている』と彼は語る」

(<http://www.philly.com/mld/inquirer/living/religion/13573441.htm> Jan. 08, 2006 *The purpose-driven pastor* By Paul Nussbaum).

伝統的な意味で用いられるキリスト教根本主義者とは、恐怖によって動かされるのではなく、真理への愛によって動かされる者たちです。

『根本主義者』という言葉自体は、1920年代に出版された『信仰の5つの根本原理』と呼ばれるものから来ている。そしてそれは非常に律法主義的で、キリスト教の狭い見方だ」 Myths of the Modern Mega-Church,” May 23, 2005,

<http://pewforum.org/Christian/Evangelical-Protestant-Churches/Myths-of-the-Modern->

Megachurch.aspx

リック・ウォレンが律法主義的で、狭いキリスト教の見方と呼ぶ信仰の5つの根本原理とは

1. 我々の主イエス・キリストの神性
2. 処女降誕
3. 血の贖い
4. 肉体の復活
5. 聖書の不可誤謬性（誤りの無いこと）

これらがリック・ウォレンにとっては本質的ではないです

『これらのものをひとまとめにするなら、**教理が重要にならない**とか、**重要でない**と言いたいのですか？』

『いいえ、違います。これはアウグスティヌスの言っていたことだと思います。

「本質的なものには一致を。**本質的でないものには自由を**。そしてすべてのものに慈善を」そして**それが**礼拝、交わり、弟子訓練、奉仕、伝道の5つの聖書的目的だと思うのです。**すべての人がこれに同意します！**』

(Rick Warren [“What a purpose driven church is not” by Rick Warren, Rick Warren’s Ministry Toolbox, Issue #208, 5/25/2005](#)) (Emphasis added).

信仰の本質的なものは礼拝、交わり、弟子訓練、奉仕と伝道であり、「すべての人が同意する」ものだと言っています。

「ウォレンの牧師訓練プログラムはカトリック教徒、メソジスト、モルモン教徒、ユダヤ教徒、叙任された女性を歓迎している。『私は本質的でないことに関して議論をしたくない。私は他の教派を変えるつもりはない。**なぜそう分裂を引き起こそうとするんだ？**』 [“This evangelist has a ‘Purpose’” by Cathy Lynn Grossman, USA TODAY, July 21, 2003,](#)

http://www.usatoday.com/life/2003-07-21-rick-warren_x.htm. (Emphasis added)

リック・ウォレンはカトリック教徒やメソジスト、モルモン教徒、ユダヤ教徒たちの間の違いを「本質的でないもの」と考えています。聖書を文字通り信じる者は「21世紀最大の敵のひとつ」と呼ばれているのです。当然ながら、このような見解を持っているのはリック・ウォレンひとりではありません。これはイマージングチャーチの大半に見られるもの

です。一致と協調のために真理が退けられている一方で、真理を主張する者たちは敵とみなされています。イマージングチャーチの指導者たちはこの時代に合わせるために、福音のメッセージを変える必要性を感じています。ですが神はこう言われます

『どうして、あなたがたは、『私たちは知恵ある者だ。私たちには主の律法がある』
と言えようか。確かにそうだが、**書記たちの偽りの筆が、これを偽りにしてしまっ
ている。知恵ある者たちは恥を見、驚きあわてて、捕らえられる。見よ。主のこと
ばを退けたからには、彼らに何の知恵があろう。』**エレミヤ 8 章 8 節-9 節

イマージングチャーチとパーパス・ドリブンの PEACE プランは、良い目的で作られたか
もしれませんが、黙示録 17 章に預言されてある宗教の一致をもたらす重要なステップにな
ることは明らかです。今日反キリストの霊は教会を含む世界すべての領域で働いています。
これらのテーマについて言うべきことがたくさんありますが、近いうちに反キリストにつ
いての記事でそれを扱いたいと思います。現在のところ、私たちはリック・ウォレンの教
えとイマージングチャーチの欺きについてクリスチャンに警鐘を鳴らしています。悲しい
ことにそれはすでに大勢のクリスチャンを非聖書的な礼拝や、非聖書的な信仰へと陥らせ
ています。このようなことに声高に反対する者たちは、ますます分裂を引き起こす者、思
いやりのない者とみられてきています。

『だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っ
ていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っていま
す。あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入れ
てはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。そういう人に
あいさつすれば、その悪い行ないをともにすることになります。』2 ヨハネ 9 節-
11 節

「ポストモダン」的な信仰では、ヒンドゥー教、イスラム教、神秘主義、ローマ・カトリ
ック、イコン、聖体拝領、ヨガ、インターフェイスの礼拝などが歓迎されています。問題
は、私たちが「新しい改革」の一部になるか、聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦
うかどうかということです。

シャローム

ジェフ・トゥール

For further information see

Faith Undone. Roger Oakland, lighthouse trails publishers.

Roger Oakland, *Faith Undone* (Silverton, OR:2007 Lighthouse Trails Publishers)

<http://www.lighthousetrailsresearch.com/>

<http://www.moriel.org/>